

特集

学生座談会

いよいよ卒業を迎える4年生。

4年を振り返ってみると、様々なことがあったと思います。楽しかったこと、辛かったこと、成長できたと感じることなど…。その4年間の想いを言葉にして、後輩のみんなに伝えてもらおうと思います。

卒業生



●経済学部 4年
今泉 奉文
IMAIZUMI, Tomoyuki



●経済学部 4年
庄司 大輔
SHOJI, Daisuke



●教育人間科学部 4年
加藤 雄一
KATO, Yuichi



●教育人間科学部 4年
菅野 瑛彦
KANNO, Akihiro

大学生生活の思い出は？

講義の取り方って
ありますか？

就職活動のための
アドバイスを！

学生生活を
点数で表すとしたら

社会に出て
成し遂げたことは？

自分自身変わったと思うこと、
得られたものは？

学生編集スタッフ●
4年間の大学生生活の思い出は
ばんですか？

庄司●私は管弦楽団に所属していて、3年生の冬に東京公演を行いました。そこで1年生からずっと積み上げてきて、3年生で結果を残すことができました。苦労もいっぱいありましたが、結果を残して成功できたということがものすごくいい思い出です。

菅野●4年間何をしていたかという、やりたいことのためにお金を稼いで、そのために使って、そしてまたやりたいことを見つけてお金を稼いで…、の繰り返しでした。あくせくやっているうちに4年間経ったなという感じです。

今泉●1年生からずっと4年間、環境活動のサークルをやっていました。その中でも印象に残っているのは、本州から離れて佐渡に、毎年田んぼの再生をするといったイベントをしに行っていたことです。毎年違うメンバーで行くので、人数もばらばらで、毎回新鮮でした。泊まる場所も、田舎のよさ、新潟っぽさを感じられました。

それが一番印象に残った思い出です。

加藤●僕は日本中を旅していました。今は笑顔写真家として活動していて、各県に行き、その土地の笑顔、いろんな人の笑顔を撮らせてもらっています。旅先でその土地に関わりたいたいと思って、ボランティアをしたり、ヒッチハイクをして、そこで出会った笑顔を撮らせてもらったり、そんな写真家として活動をしています。僕は今、新潟中を笑顔でいっぱいこしちゃう集団、団体を組んでいて、この前は新潟で「笑顔で笑顔になっちゃう笑顔展」という個展を開いたりもしました。すごく充実した大学生活でした。



笑顔の写真展を
開きました

在学生



●教育人間科学部2年
丸山 茜
MARUYAMA, Akane



●経済学部1年
安澤 陽平
ANZAWA, Youhei



●法学部1年
菓子谷 弥虹
KASHITANI, Yako

学生編集スタッフ●ありがとうございます。在学生の皆さん、先輩の4年間こうだったよという話を聞いてどうですか。今こういうのを頑張っていて、いい思い出ができたというものはありますか。

安澤●先輩たちは結構外に出て活動していると感じました。自分は群馬出身で、新潟に住んでまだ1年経っていないけど、外に出ているんなら行動をしたい、ボランティアもやってみたいと考えています。

丸山●2年生がもう終わりますけど、やっぱりあっという間でした。外国に留学もしたいと思っていたけど、しないで終わってしまうので、加藤さんみたいにやりたいと思ってすぐ行動に移せるのはすごくうらやましいなと思いました。

学生編集スタッフ●
大学ならではの講義の取り方って
ありますか？

今泉●経済学部は最初ミクロ経済やマクロ経済の講義を受けますけど、「これが社会に出て何の役に立つんだ」って言う人ってけっこういました。高校生が「因数分解なんてこんなの社会に出たら使わないよ」と言うのと同じかも。確かに、使う機会はないかもしれませんが、でも、いつか何かの役に立つかもしれないというふうに考えを変えたら、大学の授業を受けるにあたって張りが出ました。だから「○○学部だから」と学部縛られなくて、敢えて自分の専門分野じゃないものをかじってみる面白さを味わってほしいですね。



学部縛られなくて、敢えて自分の専門分野じゃないものをかじってみる面白さを味わって！

菅野●今泉君も言うように、僕もいろんな学部の授業を取っています。いろんな学部の授業を取ってみるとすごく楽しいですね。雑学という感じでもないけど、単純に面白そうと思ったら受けてみるのもいいと思います。医学系の授業はすごく面白かったのでいっぱい取りましたね。



庄司●4年間いつも部活とバイトばかりだったので、今も授業がちょっと残っています。大変ですけど、実は今、卒論の講義を取っています。部活とバイトばかりやっていたので学部のゼミの人や教授とも全然仲良くなかった。でも、卒論をやっているうちにゼミの人と団結感が生まれ、それこそ教授室に1日中缶詰で先生と一緒に卒論をやっていたりすると、先生の意外な側面を見たり、いろいろなつながりもできたり、いい経験になりました。

大学は遊ぶため、あと就活のためと割り切って考えてもいいと思います。だけど、結局何か残さないともったいないとも思っています。遊ぶためだけにいっぱいお金を使うならフリーターをしていればいいし、就活のためだけに4年間使うのもバカバカしい。何か一つの形を残したい、という一つとして卒論もあるのかなという思いがあります。

学生編集スタッフ●卒論は結構ためになるということですね。



庄司●結果論の話ですね。やっている時は、取らなきゃよかったなと(笑)。

学生編集スタッフ●
4年間の大学生活で自分自身変わった
と思うこと、得られたものはありますか？



加藤●大学生になってすごく変わったと思うのは「可能性」です。高校生の頃は何かをしたいという思いがあっても、自分のスキルや人脈、経験も何もなく、ただ何かしたいという思うだけでわだかまりがありました。だけど、大学に来ていろんなところに行っている人々に会って視野がすごく広がった。そこで思ったのが、「何でもできる」ということ。何でも、社会に対してでも自分がこうしたいと思って、それに向かって行動していけば社会も絶対認めてくれるし、どこかで必ず見てくれる人もいますので、本当に自分がこうしたい、こうなりたいと強く思ったら絶対に不可能はないと思います。自分で壁を作らないで、自分の可能性を信じて、不可能だなんて考えずに挑戦してほしい。それを後輩に伝えていきたいですね。



今泉●高校生の時は高校の中で一番勉強ができればいいと思っていました。勉強ができれば褒められるし、自信も持てたけど、大学に入ったらそうでもない。例えば、ボランティアをしたり、国体に出たりするの方が生き生きしていました。大学で自分に自信を持つようになるためには、人に言われた目標じゃなくて、自分で決めた目標に自分で向かっていかなきゃいけない。さっき加藤さんが言った可能性ということも含めて、自分の目標を定めて、それに向かっていく。4年間でそれらに気がついたこと、その力を身につけられたことが得られたものだと思います。



庄司●4年間、テレビ局のカメラアシスタントのバイトをしている中で得られた経験が、大学生活で得られたものです。1年生で入った時、ちょうど中越地震1年目の復興というタイミングでいろいろな所に行かせてもらって、いろいろな人に出会いました。その中で、様々な価値観や、悲しみだったり、楽しみだったり、いろいろな気持ちに触れている経験ができたことが得られたものですね。

さらにまた中越沖地震が1年半前にあった時にちょうど現場にいて、自分も被災しました。家が崩れている中、最先端で報道する側の人間としていろいろな人に出会って、そこでも悲しみに触れました。同時に「自分はどうしたいのか？自分はもっと新潟を元気にしたい！」という気持ちが生まれてきたりもしました。そういった人と人との出会いの中で自分の価値観も広がっ



テレビ局のカメラアシスタントのバイトをしている中で地震の現場へ。人々との出会いの中で自分の価値観も広がりました。

ていったので、いろいろな経験を後輩の皆さんにもして欲しいと思います。



菓子谷●加藤さんの話を聞いていてすごく感心することばかりでした。今、全国を回って写真を撮って写真家として活動されていますが、それは大学に入る前からやろうと決めていたことなのか、それとも大学生活を送る中で何か影響されることがあって、自分でやってみようと思ってこんなふうになつなつたつながりを得られたのか、その辺を聞きたいです。



加藤●中学1年生の時に映画監督になろう、自分の中で表現というものを追求しよう、と思っていました。表現の種類っていっぱいあって、こういうふうの前に立って講演するのも表現だし、ダンスや音楽にもいろんな表現方法があるから、自分の中で自分のいろんな表現を使って自分の思いを人に伝えたいという気持ちも以前からありました。でもやっぱり高校生だからお遊びみたいな感じでした。だけど、大学に入ったらいろんな人がいて、自分より上のスキルを持っている人がいる。そういう人に出会って話をしてみたら、仲良くなって、こうやってこうしたほうがいい、って教えてくれたんです。そこで教えてもらったことを自分の中で噛み砕いて、自分の栄養にして、どんどん大きくなっていった結果、こういうふうになつたのかなと思っています。軸となる思いはあったけど、肉となる部分がなくて、それを大学でいただいたのかな、という感じです。



丸山●就職先を決める時って自分のやりたい職業に就けましたか。そういうことをどうやって調べたり決めたりしたのかが知りたいのと、あとどんな時期からこういう職業に就こうと決め始めたのかが知りたいです。

菅野●1、2年生の頃はとりあえず免許を取って教師になるのも一つの選択肢だな、という考えで就職を取るために頑張っていました。けど、果たして自分が本当にやりたいことって教員なのかな、と。それで、他学部の授業を取って自分の興味を広げていくなかで、経済の講義を取ったら、難しいけど面白いと思ったこともあって、結局就職先は銀行になりました。自分の希望通りで運良く第一志望のところにも入れたので良かったです。

1、2年生の頃は教職を取るために頑張っていたけど他学部の、経済の講義を取ったら面白くて…



何で銀行にしたのか。決め手として一番自分の中で大きかったのは、接客業をやりたい、という気持ちです。接客といっても飲食店やスーパーや小売業とかいろいろあります。僕はアルバイトですと某スーパーの婦人服やカバン、靴を販売していて、接客しているのがすごく楽しかった。人の相談を受けて答えるということにすごく自分が必要とされて、それに答えて相手が喜んでくれるということがすごく嬉しかったので、接客業にしようと思いました。

そして3年の後期から就職活動を始めていろんな業界を見ました。銀行でも窓口で接客したり、融資の相談で答えたり、プランを説明したりする部分があったので、最終的にはやっぱり銀行に決めました。

今泉●私はさっきの加藤さんとは逆で、仕事に誇りをもつとか、仕事に生きがいを求めるといった考えで仕事の選び方はしませんでした。どういう生活をしたいか、例えば土日は休んで、子どもができたなら一緒に公園で遊びたいなとか、あとは自分のライフスタイルから見てどうい職業がいいか、考えて決めました。だからもし今やりたい仕事がないとか、やりたい仕事がよくわからないとしても、例えば将来30歳になったらどんな生活をしたかかな、っていうふうに将来をイメージして考えておけばいいと思います。



庄司●バイトでその日ごとに新潟県内のいろいろな場所に取材に行くなかで、毎日いろんな人との出会いがありました。その経験の中で「いろんな人と出会いたいな」という気持ちが強くなって、それを仕事にも生かしたいと考えました。結局大学4年間でいろいろ経験してきた結果、自分の好きなことがやりたい職業につながっていくと思います。加藤君の場合は中学校の時からずっとつながっているけど、過去を思い返した時に、自分の好きなことが実はやりたい職業につながっているということに気付くこともあると思います。

菅野●やっぱり何でその職業に就きたいのか、という動機をしっかりとっておいたほうがいいと思います。僕はさっき言ったとおりに接客をやって、人と話したい、と。

学生編集スタッフ●
せつがちなので、就職活動のためのアドバイスも何かあればお願いします。

今泉●面接では、「ああ、この人と一緒に働きたいな」と思わせることができればいいと思います。例えば志望動機に地域貢献ですとか社会貢献ですとか、訳もわからず言っていそうな学生とは一緒に働きたいと絶対思わない。僕にはこんな夢があると言ったとして、変なこと言い始めたぞと思われる、「ああ、一緒に働きたいな」と思わせられれば何でも受かると思います。

安澤●4年間過ごした中で、これをやった、これを誇れる、というもの、若しくはこう思ったからこうしたと、自分を動機づけたものがあったら教えてください。

菅野●人付き合いの中で尊敬できると思える人に出たら、そういう部分を吸収していこうとすごく意識していました。人のいいところをどんどんまねして吸収していけば、自分の力になると思います。そんなことを頭に入れておいてくれたらと思います。

学生編集スタッフ●
学生生活を点数で表すとしたら何点ですか？良かったこと、心残りなことはありますか？

庄司●あえて、95点ぐらいです。4年間振り返るとずっと走り続けていたと思います。部活が週2、週3で、その間にバイトが週2、週3ぐらい入っていて、空き日が1日あるけど授業でつぶれたりしていました。ほとんど家にいなかったんで、濃い4年間だったと考えると評価しているのかなと思っています。そして、その中のバイトにしても部活にしても何かしらの経験をして、結果を残せた点でも良かったと思いました。あとのマイナス5点というのは、もう少し日にちがあつたらもっといろいろなことをしたかったと思うからです。やり足りなかったこと、心残りなことは、走り続けていて、周りにしている遊びをそんなにしなかったことです。残った時間でこれからするつもりですけど、もっとそういった側面も楽しめたかったと思います。

菅野●自己採点では80にしておきます。やりたいことを全部やったかというそうではないですね。やっぱり時間が足りないというのが大きい。やりたいことはやってきたけど、それでもやり足りなかったという気持ちがあります。

今泉●自分は88点ぐらいかなと思います。自分の大学生活の中では1、2年生の時がピークの時期でした。3年生になって「もうあれもやったし、これもやったな」ということが多くなって、だんだんピークから下がってきている気がして、次にやりたい何か新しいことがなかなか見つからないモヤモヤした時期がありました。4年生になってから外国人と友だちになろうと思って、外国人の友だちをいっぱい増やしました。一緒に音楽のコンサートにも行ったりして、それで80点だったのが88点に上がったかな。あとの12点は外国に行ってもっと自分の視野を広げられれば良かったと思っています。



学生編集スタッフ●
最後に、「社会に出て成し遂げたいこと」をお願いします！

加藤●100点満点中で表すと1,000点です！やりたいことも減茶苦茶やったし、毎日幸せだし、言うことはありません。でも心残りなことはあります。3年後とか4年後とかわからないけれども、自分も含めて将来的に自分の店をもちたいと思っている人たちと一緒に、「お店会議」を起こして「これからどうしていくか」、実際に持っている気持ちからどうアクションを起こしていくか、という会議をしようとしていたところで4年生の今の時期になってしまいました。もっと早くからやっていたらもっと進んでいけたのと思うけど、今までがあって今気づけるのだから、それはそれでいいのかなと思っています。

加藤●社会に出て成し遂げたいことはいっぱいあります。ちょっとした夢ですけど、3年後にお店をもって、5年後に出版をして、10年後に会社を作りたい。不況とかいろいろ肩身の狭い世の中で、どこかに休憩する場所が必要なんじゃないかと。疲れてきても、おいしいごはんを食べて、安らいで、出ていく時にはリフレッシュしていて、また頑張れる、みんなにとってのもう一つの“おうち”になるようなお店を造ろうと思っています。みんなの支えになって、ちょっとでもいいから幸せを感じてほしい。その気持ちをさらに本を出版することで表現したり、会社でもそんなふうみんなへ幸せをどんどん届けて、新潟を拠点にして幸せを発信していきたいです。

今泉●大学に入っているんな立場に立ったことで視野も広がったし、4年間という大学の期間はすごく大事だと改めて感じました。大人でもない子どもでもないグレーゾーンみたいな立場で何でもできるし、時間もすごくある。そこで広がった考え方や視野を無駄にしないで、社会に出てから「自分は忙しいからこれは無理だ」と絶対言わない社会人になりたいと思っています。できればボランティアもしたいし、社会に出てからでもやれることは絶対にあるはずなので、それを見つけてどんどん自分を高めて、人の役に立っていきたくて思っています。

菅野●仕事を通してでも何でも、やることはちゃんとやって、あとは本当に自分のやりたいことをやろうと思っています。今でもやりたいことをやっていますけれども、これで終わりじゃなくて、社会に出てからも自分のやりたいことをやっていきます。海外へ行ってみたり、国内で行ったことがないところに行ってみたり、やり残したこともしていきたい。あと、社会に出てからもやりたいことはもちろん出てくるだろうし、見つければやっていきたいと思っています。

庄司●いろいろな人と出会って自分の価値観を高めたいし、その中で自分を活かせるらしいなと思っているので、誰でもいいからもっといろいろな人と出会って自分を高めたい、自分を成長させていきたいと思っています。

今日は皆さん本当にお忙しい中
ありがとうございました。
思い出、就活のこと、将来のこと…
はぐはぐ、いろんな話をしてもらいました。
きっと4年生の熱い気持ちは
在校生に届くぞと思います！
ありがとうございました。

